

社会福祉法人 東京有隣会

有隣

YURIN

2025.11

(令和7年)

創立100周年



「新棟整備工事完成」

4年越しの工事が、いよいよ完成です。奇しくも100周年を迎える東京有隣会が、時代とともに進歩し、施設も生まれ変わります。

技術の最先端を駆使し、素晴らしい建物が完成しました。外観はプレキャストコンクリート（PC版）を使用したバルコニーの横の線とデザイン的に並ぶアルミルーバーの縦の線がとてもシャープで建物全体がすっきり、スマートに映ります。1階エントランスホールからホスピタルストリートは幅6m×長さ33mと明るく開放的です。2階から5階は回廊形式となっており、中央に2層吹き抜け（4階・屋上）の光庭を設け、自然採光・自然換気により明るい雰囲気を感じます。建物の高断熱化、空調設備の高効率化、LED照明の採用等、省エネルギーでかつ快適な居住環境を整えました。BCP対応としては350kVAの非常用発電機、10,000Lのオイルタンク、48kWの太陽光発電設備、マンホールトイレを新たに設置しました。

近隣の皆様には工事中ご迷惑をおかけしながらも大変なご協力を賜りました。東京有隣会は今後とも皆様とともに地域に貢献してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新棟建設担当部長 青山雅彦

東京有隣会

『有隣病院・第2有隣ホーム新棟建設整備工事完成引渡式』が
8月28日に本部棟1階 研修ホール1で行われました。



建設事務所、工事
関係者のみなさま
長い間ありがとうございました。

●再エネ設備情報及び省エネルギー対策の取組

- ・太陽光発電設備は、昨年9月新棟開設と同時に設置し、新棟・別館が稼働しました。当初のシミュレーション以上に発電しています。
- ・今年度の省エネ対策としては電力契約を電源連動型から市場連動型再エネメニューに変更し、消費電力及び電気料金の削減を図っています。
- ・停電時・災害時に稼働する非常用発電機を屋上に設置しました。BCP対応として72時間運転が可能です。

●マンホールトイレを新たに正面広場に設置しました。

●「世田谷区震災対策用井戸」に登録しました。

有隣ホームの中庭にあります



●9月1日に総合防災訓練を実施しました。

震災を想定し各部署で状況確認。
放水訓練も実施しました。



永年勤続表彰

今年度永年勤続表彰(10年)の該当者は、
有隣病院勤務の7名、第2有隣ホーム勤
務の5名でした。

5月15日(木)の式典では9名の方が理事
長から感謝状と記念品を受け取りました。
おめでとうございます！これからもご活躍
ください。





敬老会

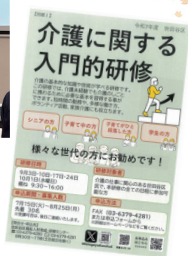
今年も「敬老会」を開催しました。ひとり一人に記念の色紙と御守りをお渡しし、「**長寿**」をお祝しました。



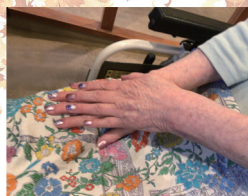
有隣ホーム



世田谷区福祉人材育成・研修センターからの講師依頼を受け、研修を行いました。



テレビ朝日福祉文化事業団ボランティアの「**介護美容**」**ネイルサービス**をお願いしました。



九月十五日の敬老の日には、海老やサーモンのお刺身を中心とした特別御膳をご提供。「海老の日」とも呼ばれる由来にちなんだ献立です。来年も皆さまと元気にこの日を迎えられることを願っています。



八月、新棟で初の夏祭りを開催しました。エレベーターホールに屋台を設け、入所者様にお好きなメニューを選んでいただくスタイルに。特に「冷やしぜんざい」が好評で、笑顔があふれました。かき氷にゼンざいをかけて、金時風[※]にアレンジされる方もいらっしゃいました。

笑顔と感謝に包まれて



第2有隣ホーム



既に介護認定を受けている方なら、どなたでもご利用いただけます。外出の機会がなかなかない方、どうぞ有隣ケアセンターをご利用ください。担当のケアマネージャーさんやあんしんすこやかセンターへご相談の上、お申し込みください。見学もお待ちしております。

日頃の活動の様子は、下記QRコードからご覧いただけます。
(Instagram)



ケアセンターでは九月十五・十六日「敬老会」を催しました。お祝膳や、ボランティアの方々による落語、琴演奏、お茶会を楽しんでいただきました。

「敬老会」を催しました



有隣ケアセンター

有隣病院

最新型の内視鏡システムの導入

令和7年9月フジフィルム社製の最新内視鏡システムを導入しました。高出力LED内視鏡では、その特性を利用した多様な観察モードが実現されており、目的に応じて、最適な観察方法を選択できます。通常の観察に加え、粘膜表面の微細な血管や構造などを強調して表示する（BLI機能）や、画像の赤色領域のわずかな色の違いを強調して表示する画像処理機能（LCI）という特殊な観察方法が可能であり、腫瘍や炎症の診断や微小な病変の早期発見が可能となります。中遠景を観察する際の観察画像の明るさが向上され、より微小な病変の観察を行えるようになり、胃がんの見逃しをより減らせることが期待できます。



内視鏡検査をご希望の方はぜひ当院へお越しください。

ちとコムススポーツフェスタに参加しました

当院では、体組成計の装置を使った栄養相談とリハビリ理学療法士による握力測定を行いました。たくさんの方が参加され好評をいただきました。



健康
コラム



自分の骨の現状を理解する大切さ。

皆さん、自分の骨が今どのような状態か把握していますか？骨の健康を保つのによく言われているのが、「バランスの良い食事を取り、適度な運動をすること」です。

しかし、人の体質や食事は千差万別、一人一人異なります。まずは、骨の丈夫さがどのようになっていくかを理解する必要があります。骨の丈夫さを説明するうえで重要なのが「骨量」「骨密度」「骨質」になります。

「骨量」は、骨の量で「骨密度」は骨量の単位面積当たりの量を示します。

「骨質」は、骨の質や状態を示します。

骨の丈夫さはこの「骨密度」と「骨質」を合わせたもので、「骨密度」が70%、「骨質」が30%を占めると言われています。

骨密度が高くても、骨質が悪ければ骨の脆くなり骨折

のリスクは高くなってしまいます。

これらが低下する要因として、加齢・ホルモンバランスの乱れ・ビタミン不足などがあります。

骨量は、18～22歳頃の成人期で最大値となり加齢とともに低下していきます。しかし、男性は加齢とともに緩やかに低下していくのに対し、女性は閉経に伴い女性ホルモンが急減することで骨量が急速に減少する傾向にあります。そのため、50歳以降では男性よりも女性の骨粗鬆症の有病率が高い傾向になっています。

これらの対策として、バランスの取れた食事・適度な負荷の運動・日光浴・禁煙など様々な対策があります。

まずは、自分の骨の状態を把握しそこから対策をしていきましょう。

放射線科

